第３２４回　令和８年１１月６日（金）

「昔話を考える」

若い人の日本の昔話の認知度はかなり低くなっているかもしれません。以前小学校の教科書に載っていたお話も、現在は倫理的な問題で削られたものもあるでしょう。

例えば桃太郎。おじいさんは山へ芝刈りに、おばあさんは川に洗濯に行きますが、現代的に見ると男女の役割の固定化と言われるかもしれません。
猿とキジと犬に「きびだんご」をあげて家来になってもらうわけですが、これが格差や貧困を連想させるという批判もあります。

そもそも鬼は何が悪いの？異なる文化や外見を持った他人を簡単に排除してよいのですか？という意見もあります。私の小さいころは単純な「勧善懲悪」の物語だったのですが、現在はコンプライアンスがかなり厳しくなっています。

これが良いことか、悪いことかという話ではありません。ただ歴史が語り継がれることだけはなくさないでほしいという気持ちです。

金太郎は幼いころ山で育てられ、クマと相撲を取ったり、猿とケンカしたりして怪力を得ました。この金太郎がいた山が実は神奈川県の足柄山です。地元には金太郎神社や金太郎にまつわるお菓子が売っています。

金太郎のモデルになったと言われているのが平安時代の豪傑、坂田金時。武将の源　頼光に仕えた人物で「四天王」と呼ばれた忠臣の１人です。

これも伝説ですが「酒呑童子」と呼ばれた酒豪の妖怪を倒したことで有名です。桃太郎と同様に推測するとモデルは酒癖の悪い盗賊だったのかもしれません。

この昔話もコンプライアンスに引っ掛かる部分はあるのかもしれませんが、神奈川で暮らしていて足柄山を訪れる機会があったとしたら、金太郎さんを知っていることで興味が格段に増すのは間違いないと思います。

探究心はこのような好奇心からスタートします。旅行に行く場所に昔話や伝説があったらぜひ調べてみてください。人々の暮らしや伝説が生まれた頃の時代など、そこから知識が広がっていくと思います。

逸話の中に歴史があります。探して推理するのはとても楽しい経験になります。